

貧困の連鎖を防ぐための支援策 ～子どもの居場所づくりの充実～

資料 3

◆子どもの貧困対策にかかる計画の策定

本市の子どもや若者の生活状況や貧困の実態を把握し、子どもの貧困対策に関連した、子どもの未来を応援する計画を策定する。

■実態調査

子育て家庭や支援団体等を対象としたアンケート調査を実施し、本市における子どもの貧困に関する実態を把握する。

【調査対象】

全体アンケート 4,000件
0～24歳未満の子ども・若者のいる世帯

対象者アンケート 2,000件
児童扶養手当受給世帯の保護者及び
子ども(中学生・高校生) 各1,000件

ヒアリング調査 20団体程度
学校・福祉関係者、児童養護施設等

■検討体制

附属機関

子ども・子育て会議 子どもの貧困対策部会

庁内会議

子どもの貧困対策庁内検討会議

■スケジュール

平成29年5月	アンケートの内容検討、 委託業者選定
6月	アンケート実施
8月	アンケート結果速報作成、 計画骨子作成
10月	計画素案作成
平成30年1月	パブリックコメント実施
3月	計画策定

【参考】

平成25年6月 子どもの貧困対策の推進に関する法律 公布
平成26年8月 子供の貧困対策に関する大綱 閣議決定
平成28年3月 新潟県子どもの貧困対策推進計画 策定

貧困の連鎖を防ぐための支援策 ～子どもの居場所づくりの充実～

◆ 子どもの居場所づくりの具体的な取組

子どもの学習支援事業

【現状】

- 生活保護受給世帯などの中学生を中心に、学習支援員（元教員など）の指導の下、大学生サポーターがほぼマンツーマンで学習を支援
- 市内5会場で毎週（土曜や日曜）学習会を開催。H28年度は、参加115人。うち、中学3年生41人全員が高校へ進学
- 学習支援員が家庭訪問や手紙により、参加に消極的な生徒や保護者に学習会への参加を促すほか、高校進学や卒業の重要性を伝え、理解を促進

【課題、今後の方向性】

- 学習支援の場の拡大。家庭訪問等による世帯単位での支援
⇒ 学習支援ボランティア及び参加しやすい会場を確保する。学習支援に加え、生活面に渡る相談支援も行える支援員を育成する。
- ひとり親家庭を対象とした支援への拡大
⇒ 今年度実施する、子どもの貧困にかかる実態調査の結果をもとに支援策を検討

(H28年度の状況)	北区「中学生の茶の間」	東区「中学生勉強会」	中央区「子ども勉強会」	西区「子ども学習会」
対象地域	北区	東区	中央区、江南区、秋葉区	西区、南区、西蒲区
実施地区	豊栄地区	藤見地区、石山地区	南万代地区	坂井輪地区
学習支援員	元教員	元会社員	元教員	元教員
サポーター(学生)	医療福祉大	県立大・国際情報大	新潟大・青陵大	新潟大・青陵大
参加者(うち、中学3年生)	9人(2人)	53人(16人)	20人(11人)	33人(12人)
開催回数	49回	88回	97回	101回

貧困の連鎖を防ぐための支援策 ～子どもの居場所づくりの充実～

◆ 子どもの居場所づくりの具体的な取組

地域の茶の間等での子どもの居場所づくり

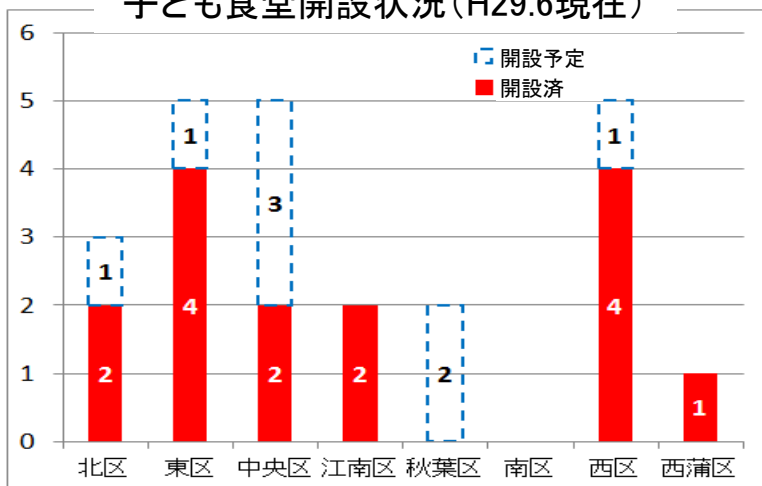
【現状】

- 子どもから高齢者、障がい者など、誰もが気軽に参加できる居場所である「地域の茶の間」には運営経費の一部を助成しており、市内500か所以上で開催されている。
- 同助成を活用して運営される子ども食堂もあり、地域の実情にあわせた取組が広がっている。
- 子ども食堂の運営主体の連携を図る情報交換会に市も参加し、課題を共有

【課題、今後の方向性】

- 子ども食堂については、地域が主体となった取組のメリットを活かしながら、それぞれの実情にあわせた柔軟な運営が行われているが、より安定した運営が課題
- ⇒今年度、子どもの貧困対策に関連した、子どもの未来を応援する計画を策定する過程で、子どもの居場所づくりにかかる行政の役割などについて検討

子ども食堂開設状況 (H29.6現在)



● 市内に15か所開設済。開設予定を含めると、7区に広がっている。

	子ども食堂開催状況
北区	①照善寺(第4土曜)、②早通健康福祉会館(第2・4土曜)
東区	①藤見団地集会所(第2・4木曜)、②東明自治会館(第1・3水曜)、③なじよも(第2・4金曜)、④キッチンバンビ(第3又は第4火曜)
中央区	①白新コヒ(第1土曜)、②金宝寺会館(第1・3水曜)
江南区	①えんではよこごし(不定期)、②亀田キリスト教会(第3金曜)
西区	①喫茶けやき(第1木曜、第3火曜)、②護念寺(第2・4金曜)、③みんなの家マナ(不定期)、④鳥原本村集会所(試行開催中)
西蒲区	①明誓寺(不定期)

貧困の連鎖を防ぐための支援策 ～子どもの居場所づくりの充実～

◆ 子どもの居場所づくりの具体的な取組

子どもの読書環境充実のための図書サービス(地域の茶の間等への支援策)

【現状】

- 子どもの読書活動を推進するための各種事業を展開
(主な取り組み)
 - ・ブックスタート事業
 - ・「うちどく(家読)」の推進
 - ・親子で参加する読み聞かせ事業
 - ・学校や保育園、ひまわりクラブ等への団体貸出の実施

【課題, 今後の方向性】

- もっと身近に図書に親しめる場所や機会の充実
 - ⇒「地域の茶の間」や「子ども食堂」など、より身近な場所へ団体貸出制度を拡大
 - ⇒「地域の茶の間」や「子ども食堂」など読み聞かせ等ボランティアの派遣

<団体貸出制度の拡大>

